

## 平成 1 5 年 1 月「通信産業動態調査」の結果（確報）

通信産業（電気通信事業及び放送事業）の平成 1 4 年度第 3 四半期の売上高は、前年度同期比 **1.8%の増加**。電気通信事業は **2.1%の増加**。民間放送事業は **1.7%の減少**。

今後の売上高見通しは、電気通信事業とケーブルテレビ事業は「**増加**」と見る傾向。民間放送事業は「**減少**」と見る傾向。

総務省は、この度、平成 1 5 年 1 月に実施した「通信産業動態調査」（総務大臣承認統計）の結果（確報）を取りまとめました。売上高見通し及び資金繰りについては、3月28日発表の速報を修正しています。今回の調査結果の概要は、別紙のとおりです。

### 通信産業動態調査について

通信産業動態調査は、通信産業(電気通信事業及び放送事業)の経営動向を機動的に把握するため、売上高、売上高見通し等について月次調査を行っているもの。平成 7 年 4 月から実施。

#### 【調査対象】

前年度（平成 1 3 年度）の業種別の売上高のシェアに応じて各業種の調査対象事業者数を按分し、業種ごとに売上高上位の事業者を標本抽出。

区分	対象事業者数
通信産業全体	133
電気通信事業	63
第一種電気通信事業	43
移動系	18
移動系以外	25
第二種電気通信事業	20
放送事業	70
民間放送事業	50
ケーブルテレビ事業	20

#### 【調査方法】

アンケート調査(調査票送付、FAX又はインターネット入力により回答)により実施

#### 【調査項目】

売上高の状況（毎月実施）及び売上高見通し等(7月、10月、1月、4月のみ実施\*)

\* 6月、9月、12月、3月時点における売上高見通し等を翌月報告

## 1 売上高の状況

通信産業全体の平成14年度第3四半期の売上高は、前年度同期比で**1.8%**の増加であり、4期ぶりに増加。

電気通信事業は**2.1%**の増加、ケーブルテレビ事業は**33.0%**の増加であるが、民間放送事業は**1.7%**の減少である。

表1 売上高の前年度同月比・同期比

〔単位：％〕

区分	第3四半期			第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	通期	
	10月	11月	12月						
1 3 年 度	通信産業全体	7.5	1.0	2.0	8.8	4.3	1.9	3.0	2.8
	電気通信事業	9.3	1.8	1.4	9.7	4.2	2.8	2.9	3.2
	第一種電気通信事業	10.3	1.7	1.4	10.2	4.3	3.1	3.1	3.3
	移動系	27.7	2.2	4.2	24.9	9.0	6.2	9.4	6.6
	移動系以外	0.7	1.3	1.1	1.6	0.2	0.6	2.9	0.5
	第二種電気通信事業	9.6	2.1	0.3	0.3	2.3	2.5	2.1	0.6
	放送事業	3.8	4.5	6.4	2.6	5.1	4.6	4.5	0.5
	民間放送事業	4.8	5.5	6.6	1.9	4.4	5.6	5.8	1.4
	ケーブルテレビ事業	39.0	39.5	2.9	29.4	28.0	39.1	34.8	32.6
	(参考)全産業				1.3	2.6	3.8	7.4	
1 4 年 度	通信産業全体	4.3	1.8	3.1	2.9	3.2	<b>1.8</b>		
	電気通信事業	5.3	2.0	3.3	2.8	2.8	<b>2.1</b>		
	第一種電気通信事業	5.3	2.1	2.7	3.1	2.9	1.9		
	移動系	17.8	1.5	9.6	8.6	12.7	9.3		
	移動系以外	4.9	5.2	3.1	2.4	7.6	4.4		
	第二種電気通信事業	5.8	0.6	16.8	4.9	2.1	7.3		
	放送事業	2.7	0.1	1.1	3.9	6.4	0.5		
	民間放送事業	4.0	1.1	0.0	5.4	7.7	<b>1.7</b>		
	ケーブルテレビ事業	36.8	35.0	27.9	37.5	30.1	<b>33.0</b>		
	(参考)全産業				9.2	6.9	5.0		

(参考) 他産業の売上高の増減率(第3四半期、前年度同期比)

不動産業	34.3%	輸送用機械	17.7%	金属製品	9.6%
電気機械	0.8%	化学	1.2%	一般機械	2.8%
出版・印刷	3.8%	電気業	3.8%	建設業	5.4%
食料品	6.2%	卸・小売業	7.7%	サービス業	21.8%

注：通信産業以外は「法人企業統計調査」(財務省)による。

表2 売上高

[単位：億円]

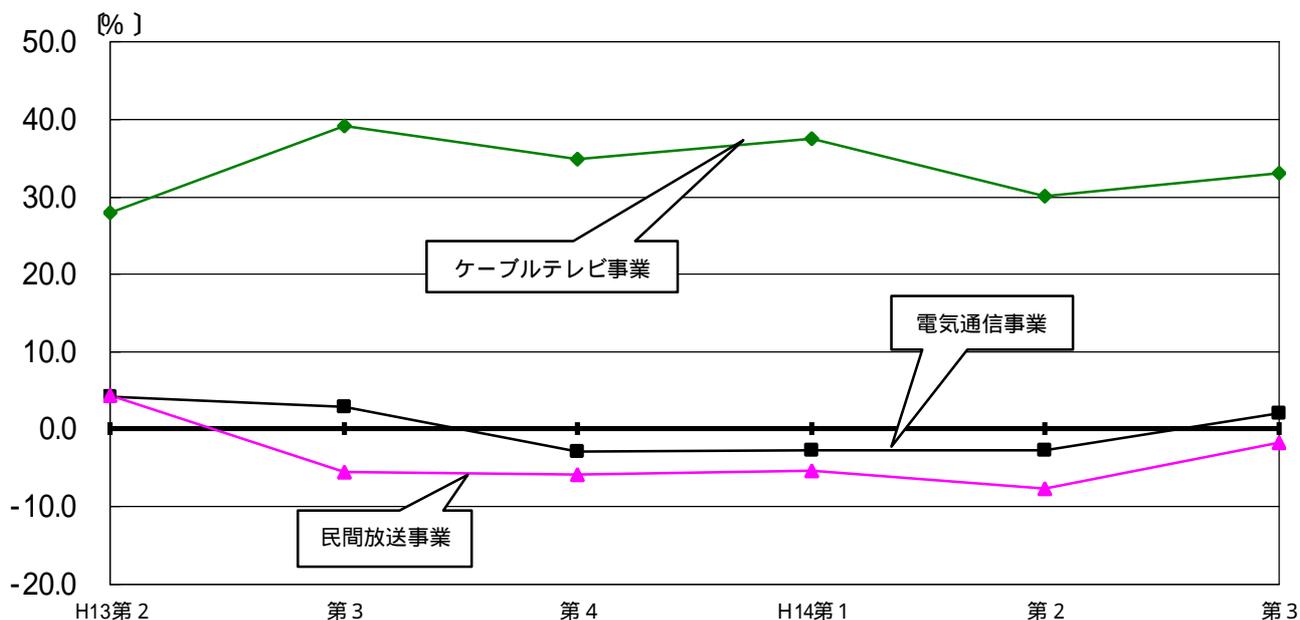
区分	第3四半期			第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	通期	
	10月	11月	12月						
13年度	通信産業全体	14,286	15,747	15,768	47,339	49,477	45,801	49,021	191,638
	電気通信事業	12,503	13,969	13,977	41,697	44,089	40,449	43,906	170,141
	第一種電気通信事業	11,967	13,328	13,351	39,853	42,050	38,646	41,761	162,310
	移動系	5,372	6,192	6,130	19,996	21,717	17,694	16,502	78,459
	移動系以外	6,595	7,136	7,221	19,857	20,333	20,952	22,709	83,851
	第二種電気通信事業	536	641	626	1,844	2,039	1,803	2,139	7,825
	放送事業	1,783	1,778	1,791	5,642	5,387	5,352	5,121	21,502
	民間放送事業	1,726	1,718	1,723	5,466	5,204	5,167	4,904	20,741
	ケーブルテレビ事業	57	60	68	176	183	185	217	761
	(参考)全産業				3,181,884	3,271,867	3,293,652	3,318,001	
14年度	通信産業全体	14,904	15,465	16,255	45,960	47,879	46,624		
	電気通信事業	13,169	13,685	14,445	40,548	42,839	41,299		
	第一種電気通信事業	12,602	13,048	13,714	38,613	40,842	39,364		
	移動系	6,330	6,282	6,720	18,284	18,958	19,332		
	移動系以外	6,272	6,766	6,994	20,329	21,883	20,032		
	第二種電気通信事業	567	637	731	1,935	1,997	1,935		
	放送事業	1,735	1,780	1,810	5,421	5,040	5,325		
	民間放送事業	1,657	1,699	1,723	5,170	4,802	5,079		
	ケーブルテレビ事業	78	81	87	242	238	246		
	(参考)全産業				2,889,137	3,046,289	3,128,331		

注1：売上高の数値は、億円単位で四捨五入をしているため、合計と内訳の数値が一致していないものがある。

売上高は、一部暫定値を含んでおり今後修正をする場合がある。

注2：全産業は「法人企業統計調査」(財務省)による。

図1 売上高の前年度同期比の推移



## 2 売上高見通し（確報）

平成14年度第4四半期及び平成15年度第1四半期の売上高見通し指数は、電気通信事業は、「26.0」、「16.0」と、「余裕がある」と見る傾向。

- 民間放送事業は、「38.3」、「27.7」と「苦しい」と見る傾向。ケーブルテレビ事業は、「47.4」、「47.4」と「余裕がある」と見る傾向。

表3 売上高見通し指数

	13年度			14年度				15年度
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
電気通信事業	38.5	20.0	17.0	23.3	37.0	18.4	26.0	16.0
第一種電気通信事業	36.1	23.5	16.7	32.1	34.4	24.2	24.2	27.3
第二種電気通信事業	50.0	6.7	17.6	6.7	42.9	6.3	29.4	5.9
放送事業	16.2	37.9	42.2	16.7	15.2	3.0	13.6	6.1
民間放送事業	52.3	72.9	78.7	46.2	51.1	29.8	38.3	27.7
ケーブルテレビ事業	72.2	55.6	58.8	60.0	73.7	63.2	47.4	47.4

(参考)

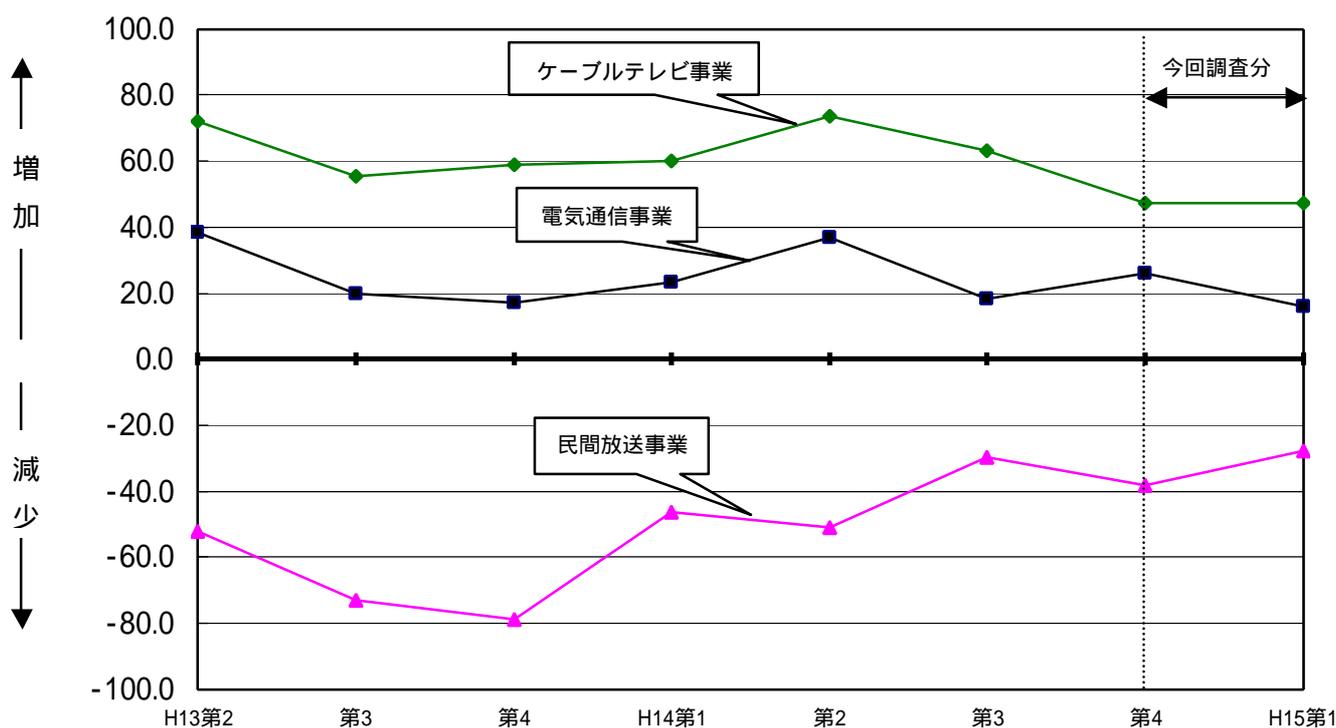
全産業	31	35	22	10	13	12	12	5
-----	----	----	----	----	----	----	----	---

注1：売上高見通し指数(DI)=増加すると判断した事業者の割合(%) - 「減少すると判断した事業者の割合(%)」

2：平成14年度第4四半期及び平成15年度第1四半期は平成14年度第3四半期末での判断、それ以外は前期末での判断。

3：全産業については「法人企業動向調査」（内閣府経済社会総合研究所）による。

図2 売上高見通し指数の推移



### 3 資金繰り（確報）

平成14年度第4四半期及び平成15年度第1四半期の資金繰り見通し指数は、電気通信事業は、「4.0」、「4.0」と、「苦しい」と見る傾向に転じる。

民間放送事業は、「12.8」、「12.8」と「余裕がある」と見る傾向が続く。ケーブルテレビ事業は、「21.1」、「31.6」と「苦しい」と見る傾向が続く。

表4 資金繰り見通し指数

区分	13年度			14年度				15年度
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
電気通信事業	7.8	3.8	2.1	4.7	0.0	8.2	4.0	4.0
第一種電気通信事業	13.9	14.3	10.0	0.0	3.1	9.1	6.1	9.1
第二種電気通信事業	6.7	16.7	11.8	13.3	6.3	6.3	0.0	5.9
放送事業	17.2	15.2	10.9	1.9	0.0	4.5	3.0	0.0
民間放送事業	33.3	27.1	19.1	12.8	10.6	12.8	12.8	12.8
ケーブルテレビ事業	21.1	16.7	11.8	26.7	26.3	15.8	21.1	31.6

(参考)

全産業	14	14	18	19	19	16	16	19

注1：資金繰り見通し指数(DI)=余裕があると判断した事業者の割合(%) - 「苦しいと判断した事業者の割合(%)」

2：平成14年度第4四半期及び平成15年度第1四半期は平成14年第3四半期末での判断。それ以外は前期末での判断。

3：全産業は「日銀短観」による。

図3 資金繰り見通し指数の推移

